

第6回 篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議 議事要旨

【日時】令和元年5月28日（火）18：00～19：40

【場所】篠路出張所

【出席者】

○委員（全14名）

地域委員（11名）

所属/役名等	氏名（敬称略）
篠路連合町内会/会長	伊藤 英夫
篠路連合町内会/副会長	進藤 幸司
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
篠路地区街づくり促進委員会/副会長	山田 勝敏
篠路地区街づくり促進委員会/総務理事	熊澤 修
篠路中央商店街振興組合/副理事長	寺田 哲
札幌市農業協同組合/理事	高見 敏文
篠路地区社会福祉協議会/会長	藤井 國夫
わきあいあい篠路まちづくりの会/会長	石本 依子
区画整理地権者	砂山 康俊
区画整理地権者	中西 昌裕

有識者委員（3名）

所属/役名等	氏名（敬称略）
北海道大学大学院工学研究院/教授	小澤 丈夫
北星学園大学経済学部/教授	鈴木 克典
NPO法人旧小熊邸倶楽部/理事長	東田 秀美

○ オブザーバー

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局総合交通計画部 交通計画課/交通施設担当課長	星野 樹哉
建設局土木部 道路課/特定街路担当課長	廻神 一元
都市局市街地整備部 区画整理事業課/区画整理事業課長	久米田 真人
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	國方 大翼

○ 事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	長南 成明
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	若林 裕也
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	瀬能 彩加

【議事・進行】

- 1 設置要綱（案）について
- 2 委員長及び副委員長の選任について
- 3 資料「第6回 篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議」について
- 4 検討資料等に関する意見交換

【議事要旨】

1 設置要綱（案）について

（事務局）

- 昨年と同様、検討会議の目的や活動内容を記載しているものである。
- 昨年度と変更となっている点は、第3条の2の委員の任期についてである。原則、令和2年3月31日までとしており、活動に一定の成果があり、委員長が解散の宣言を行った場合は、その日をもって任期を終了するとしている。

2 委員長及び副委員長の選任について

- 委員長として北海道大学大学院工学研究院の小澤教授、副委員長として篠路地区街づくり促進委員会の井形会長を選任した。

3 資料「第6回 篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議」について

（事務局）

（平成30年度の篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議の振り返り）

- 昨年度、都市計画審議会での意見を踏まえ、地域と一緒に、交通結節点としての機能及び利用者の安全性、利便性を確保するとともに、将来のにぎわい創出に向けた整備内容を検討することを目的に、篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議を設置した。
- 組織メンバーは、本日と同様の地域委員11名、有識者委員3名の計14名で、昨年度は、平成30年6月から11月の約半年間の計5回開催した。
- 札幌市としては、検討会議における意見を踏まえ、今後の展開を検討することとしていた。
- 成果として提言書が取りまとめられ、平成30年12月に札幌市に手交された。
- 提言書で取りまとめられた内容について振り返る。
- まずは、駅前広場の機能と位置の考え方について。
 - ◎駅前広場の規模は、平成30年3月に都市計画決定した際に想定していた交通結節機能と同等の機能を確保していくことが望ましいと考える。
 - ◎軟石倉庫は、私たち地域住民、札幌市民にとっても重要であると考えられ、篠路のアイデンティティーとして残せるよう、駅前広場の位置について配慮することが望ましいと考える。
- とされている。
- スケジュールについては、
 - ◎土地区画整理事業を含めた篠路駅周辺地区における社会基盤整備事業については、私たち地域住民が長年にわたり切望してきた事業であり、駅前広場を整備する土地区画整理事業については、事業のスケジュールに影響がないよう進めていただきたいと考える
- とされている。

- これらを踏まえた整備方針の提言だが、
 - ◎篠路駅東口駅前広場の在り方について、交通結節機能を確保することを前提として、地域資産としての価値を有する軟石倉庫に配慮し、その存置や移転などに係る手段及び手法について議論を重ねたが、限られた時間の中で有効な方向性を見出すことは困難。
 - ◎一方で、都市計画変更の手続を行った場合、平成31年（2019年）中頃までに都市計画決定を受けられれば、スケジュールに大きな影響を与えない見込みであると札幌市からの報告があった。
 - ◎その結果検討会議としては、軟石倉庫に影響を与えない位置で駅前広場の整備を進めていくことが、篠路のまちづくりを考える上で最もふさわしいと考え、これを地域住民の総意として札幌市に提言された。
- さらに、駅前広場にかかわる地域住民の今後に向けた考えについても取りまとめられており、
 - ◎多目的な活用により、駅前広場が明るくにぎわいのある場所となるまちづくりを目指して行動していく
 - ◎その行動に当たっては、軟石倉庫所有者の意向を尊重する。その中で、地域の資産は地域で守っていくという考え方のもと、将来、軟石倉庫が使用されなくなる、事情により解体されるといった時期を迎えたときにどうするのか、軟石倉庫の活用の在り方や資金的な課題などを今から考え、行動していく
 などの考えが示された。

（提言書を受けた札幌市の考え）

- 提言書を受け、札幌市としては、都市計画変更を行っても駅前広場の機能を確保できるなかで、都市計画変更が地域の総意であること、軟石倉庫が残ることによる景観資源としてのまちづくりへ貢献すること、地域主体のまちづくりへ貢献すること、これらにより、札幌市として駅前広場の都決変更が望ましいと考え、検討を重ねてきた。
- その中で、土地区画整理事業や鉄道高架事業の関係性等を改めて再検討したところ、全体事業スケジュールへの影響が見えてきた。

（想定スケジュールについて）

- 昨年度の検討会議で想定スケジュールをご報告させていただいた時点では、2019年中ごろまでに都市計画決定を得ることを目安に、都市計画変更のための審議会を挟んでも、仮換地指定や建物の移転工事、道路工事の開始年を変えずに進められるであろうと考えていた。
- しかし、提言書を受け検討を進めた結果、土地区画整理事業と鉄道高架事業は切り分けることができず、一体的に検討する必要があると考えるに至った。
- 具体的には、篠路駅東口駅前広場の位置変更に伴い、土地区画整理事業地内の道路等の配置や各街区からの出入りを考慮し、より地権者の生活に配慮した区画整理設計図となるよう詳細検討を進めていくことや、駅前広場から見

た駅出入り口の正面性や視認性が低下し、篠路駅周辺を訪れる方々の利便性や快適性が損なわれるおそれがあることから、駅前広場に面した駅舎の一部を変更することなどが必要であると考えている。こうした設計等の追加に伴い、事業着手、完了時期への影響が生じることとなった。

- 現時点では、土地区画整理事業に係る検討・調整に要する期間や駅舎の設計に要する期間を考慮すると、都市計画変更は、最短で2019年度末ごろになると見込んでいる。
- これにより、鉄道高架事業の事業認可の時期は2020年度になり、約2年間遅れる見込み。
- また、鉄道高架事業については、狭小な事業用地であることから、工事の切り回しが困難となるため、工期が1年延び、合計で鉄道高架の開業が3年程度遅れる見込み。
- 一方で、土地区画整理事業のスケジュールは、都市計画変更があったとしても、地権者にご迷惑をかけないように、建物の移転工事の着手や道路工事の着手の時期を遅らせないようにしたいと考えている。
- また、地権者の換地先での土地使用は随時開始し、遅い方でも2027年に開始できるように進めるとともに、地権者の不動産取引や建物更新に影響を与えないよう、予定どおり換地処分を2027年に行いたいとも考えている。

(想定スケジュールを踏まえての札幌市の考え)

- 以上の説明のとおり、事業スケジュールへの影響が見えてきたが、札幌市としては、引き続き都市計画変更を進めていきたいと考えている。

(都市計画審議会のスケジュール(予定))

- 引き続き都市計画決定の変更に向けて進められることとなれば、以下のスケジュールで進めていくことを想定している。
- 7月下旬から8月上旬ごろに、都市計画変更に関する地元説明会を実施する。説明会のご案内は、7月上旬ごろに回覧させていただく予定である。
- 11月中旬ごろに都市計画審議会での事前説明を行う。
- 12月下旬に都市計画案の縦覧を2週間行い、令和2年1月下旬の都市計画審議会の諮問にかける流れとなる予定である。

4 検討資料等に関する意見交換

(委員長)

- 昨年度、我々がまとめた提言書に基づいて札幌市で検討した結果、課題が見えてきたため、今回の検討会議が開催されたと理解した。
- 特に、スケジュールに影響があるのだが、札幌市としては都市計画変更を進めていきたいという意思がある。この内容について意見交換をしていきたい。

(委員)

- 現在の篠路駅舎は、東口が正面、西側が裏口という形である。両側が正面となるよう建てかえをしてほしい。

- また、駅舎をもう少し南側に設置することはできないか。案の位置だと、バスに乗るにしても相当歩かなければならない。検討していただきたい。

(事務局)

- 新しく整備する東側の駅前広場は西側とほぼ同等のものができるので、駅に裏表ができる形にはならないと考えている。
- 駅舎を南側に動かさないかという点だが、駅の出入口から広場への距離は以前の案と遜色ない。バス・車の定着位置から駅舎入口への動線はなるべく短い距離で設定していく。
- 現在、駅前通から歩いてきたときに駅舎がどう見えるかを検討している。駅舎正面を見えやすくするというところでJR北海道と検討を進めている。

(委員)

- 土地区画整理事業のスケジュールは、地権者に多大な影響を与えるが、ここが変わっていないところは評価したい。
- 高架事業については、3年延びるのはやむを得ないとしても、オリンピックの誘致など、あらゆる機会を捉えて前倒しになるよう努力してほしい。

(事務局)

- 極力早く完成するよう関係機関と調整しつつ、できることを一生懸命やっていきたい。

(委員)

- 工期が3年遅れる原因は何か。

(事務局)

- 大きく二つある。一つ目は、検討に際して2年間の遅れが生じるということである。まず、区画整理のエリアの変更に際して、周辺道路や地権者に配慮しながら設計の見直しをする必要があり、そこに時間を要してしまった。また、駅前広場と駅舎の位置がずれることになったが、それを踏まえて、駅前広場と駅舎が一体的に見えるしつらえについて、JR北海道と検討をしている。
- もう一点は、工事に関することである。設計の精度を高めていく中で、狭い場所での大きな工事になるため1年延びることが見えてきた。以上、合わせて3年延びるということである。

(委員)

- 責任の所在はどこにあるのか。

(事務局)

- 駅前広場の検討にあたり、鉄道高架事業も一緒に考えるべきという点に思いが至らなかった。検討にあたって視野が狭かった点については完全に札幌市の責任である。

(委員)

- 今後、工程が遅れることはないのか。

(事務局)

- これ以上遅れないと確約はできない。2030年の完了を目指すということでご理解いただきたい。

(委員)

- 地域住民への説明会の予定は。

(事務局)

- 7月下旬もしくは8月上旬に、地域の方たちへの説明する場を設けたいと考えている。7月上旬に回覧板などで開催日時などをお知らせする。

(委員)

- 関係部署との協議はきちんとできているのか。
- 反省を踏まえて、関係機関、札幌市役所内の関係部署と調整しつつ検討を進めている。

(委員)

- 東口の地域は近隣商業地域で、建蔽率は80%、容積率は200%だが、高度利用を図るためにもっと緩和してもいいのではないか。西口についても近隣商業地域に変更して容積率を緩和すればよい。
- また、西口から東8丁目通まで道路の拡幅が都市計画決定されており、買収も進んでいるようだが、8丁目通から石狩街道までの区間も拡幅すべきである。

(事務局)

- 用途地域は周辺の開発状況に合わせて、都市計画審議会において見直しを検討することがらである。篠路地区においては、まずは、基盤整備を行い、その上で、今後、どう開発していくのかを検討することになると思う。
- 西口からの通りについて、そこまで延びる都市計画決定はない。今後どのようにしていくのか白紙の状況である。

(委員長)

- 用途地域の変更は本会議の裁量を超えている。ただ、地元からの意見として、きちんと記録してほしい。

(委員)

- 昨年11月、「これで進めていきます」という言葉で会議が終わったが、ふたをあけてみたら、「そのとおりにはいきません」ということである。今後、そのようなことがないように、十分検討して進めてほしい。

(委員)

- 予定から3年間延びるとするのは非常に残念。できるだけ前倒しになるよう進めてほしい。
- 住民には整備にあたっての夢や希望がある。それをどう集約するのか。現在、「検討会議の意見」という形であり、「地域住民の意見を聞きながら」というスタイルにはなっていない。先ほど「地域住民に対する説明会」という話があったが、40の町内会があるので、もう少し意見を集約する方法を考えてほしい。また、地域には各種のボランティア等の団体がある。そういった団体の意見も聞く必要があるのではないか。

(委員長)

- 会議で話されていることがJRや都市計画審議会委員に伝わる仕組みになっているのか。

(事務局)

- 提言書が手交されたこと、その提言を元に都市計画変更をしたいことを都市計画審議会に説明していく。

(委員長)

- この第6回会議で話されたことは提言書に付加されるのか。

(事務局)

- 今回の東口駅前広場に関するご意見も都市計画審議会に報告する。

(委員)

- スケジュールが遅れることは残念だが、地域住民として、駅・まちが変わるに当たってできることに取り組んでいきたい
- 駅前広場やその周辺区画内のさまざまな要素の配置決定は、どのようなスケジュールになるのか。また、住民の意見を聞いたり、反映される機会はあるのか。

(事務局)

- 都市計画審議会では駅前広場の枠を決め、その中身についてはこれから検討するということになる。そのスケジュールについては区画整理事業の中で検討していく。

(オブザーバー)

- 都市計画審議会では区画整理区域を決める。駅前広場の中身・イメージ図はこれから検討することになる。ほかには区画道路の形を決めるが、現在、そのための換地の検討をしているところである。換地の検討は、地域に発信しながらということではなく、地権者と協議しながら進めていくことになる。公園の位置についても同様である。

(委員)

- 示されたイメージ図が整備図になるのはいつごろか。

(オブザーバー)

- カバードウォークの大きさやインターロッキングブロック、クロマツの周りの植栽台をどうするかなどは、事業の中で決めていく。工事前まで検討・変更することができる。

(委員)

- 地域の声を聞いていただく機会はあるということでしょうか。

(オブザーバー)

- もちろんである。基本的には地域の皆様のご要望に応じてつくっていききたい。

(委員)

- スケジュールがこれ以上遅延しないようお願いしたい。
- 区画整理事業は、なるべく地権者に不利にならないように、スムーズに進めてほしい。
- 線路の高架化により、駅舎を基点とした東西を結ぶ歩行通路ができるのか。

(事務局)

- 駅舎の南北両端に東西を行き来できる自由通路を設けることが確定している。

(委員)

- 駅舎のイメージはできているのか。

(オブザーバー)

- 現在、JRで細かい修正をしている状況である。

(委員)

- 我々はいつごろ見ることができるのか。

(オブザーバー)

- 年度末か来年度に具体的なイメージが見られると思っている。

(委員長)

- 駅前広場と駅舎のイメージがちぐはぐにならないように、これらの全体像を踏まえて地域住民が判断できるようにしていただきたい。

(委員)

- 土地区画整理事業については、スケジュールが変わらないということなので良いと思う。
- 本会議の趣旨からは外れるが、JR高架化の遅れが横新道の拡幅にも影響すると思う。篠路で唯一渋滞しているのが横新道である。全面的な拡幅は無理だと思うが、道銀のある交差点の渋滞さえ解消すれば、かなりスムーズに流れる。この交差点の工事が進められないか検討してほしい。

(オブザーバー)

- 横新道の整備は高架工事のスケジュールに合わせてということになる。

(委員長)

- 渋滞は地域の方にとって非常に深刻な問題である。声が上がったことを真摯に受けとめて、対策を打てるのであれば考えてほしい。

(副委員長)

- 道銀のところは、部分的に拡幅しようと思えばできる。10年先と言わず早くできないか。

(オブザーバー)

- 前後の車の流れや安全の確保も考えなければいけない。全体スケジュールに反映できるよう検討していきたい。

(副委員長)

- スケジュールが遅れるということで非常に残念であるが、仮に札幌に冬季オリンピックが招致できれば新幹線の開業も2年前倒しになることが考えられる。そうすると、ぜひ篠路駅の整備も新幹線の開業に合わせて前倒しをしてほしい。
- 東側に住んでいる者としては、区画整理をやる以上は、西側に負けないくらいのもちになるような都市計画、設計をしてほしい。

(委員)

- 地域交流拠点にふさわしい再開発をしてもらわなければいけない。バランスのよい拠点になるように札幌市も頑張っていただきたい。

(委員長)

- 篠路は「都市計画マスタープラン」で地域交流拠点として位置づけられてい

るので、東口駅前広場だけの話ではなく、篠路全体をどうするかということ
を踏まえて進めるようにお願いしたい。

(委員)

- 3つの点から申し上げたい。1つはスケジュールについて。3年遅れるのは、
駅舎と周辺のマッチングを検討するためということである。まちづくりとは
100年の計であるが、地方財政が非常に苦しい中、こういう整備・再整備
は何度もすることはできない。より良いものにするために、3年延びること
を逆に利用して、相乗効果が出るように進めてほしい。
- 2つ目は、住民の生活あつての整備なので、説明会や情報提供、住民の声を
聞く努力をしていただきたい。
- 3つ目は、篠路は地域交流拠点と位置づけられ、交通の結節点でもあるので、
周辺整備、バリアフリーやユニバーサルデザイン、また、乗り継ぎも含めて、
広い意味で利便性の高い駅・駅周辺になるように進めてほしい。

(委員)

- 現在、東日本大震災の復興が進められていること、東京オリンピック・パラ
リンピックのための整備が始まったこと、熊本の地震・風水害、土木・建築
業者の人手不足などの影響で、どこも工期が遅れている。これ以上遅れてほ
しくはないが、そういった状況も踏まえておいた方がよい。
- 札幌市が今回、スケジュールが遅れてしまうことについて説明し、意見をもち
もらうためにこの会議を開催したことは評価したい。

(委員長)

- この会議の主題は「東口駅前広場の在り方」だが、篠路の拠点となる場所であ
るし、篠路のまちづくりには地元の方との協働が不可欠である。よって、
駅前広場以外に関する意見についても、市の内部で共有して役立ててほしい。
「前に話したのにこの人には通じていない」となると、行政と地域住民との
信頼関係が損なわれてしまう。オール札幌市役所として対応してほしい。
- 一通り意見を伺った。「工期が遅れることは非常に残念。今後、遅れないよう
にしてほしい」という強い希望があった。ただ、「提言書でまとめた方向性・
考え方を変える」という話が出なかったので、今までの検討結果を否定する
ものではないと理解した。

(委員)

- 篠路地域では、横新道の踏切の解消が何十年も前からずっと言われている。
それが3年延びて2030年になるのであれば、道銀から五差路までの横新
道の拡張だけでも進めていただければと思う。そして「その数年後には高架
化もされる」という期待を持たせるような取組も必要ではないかと思う。ぜ
ひ検討してほしい。

(オブザーバー)

- 先ほど申し上げたとおり、車の交通の安全性も考えながら全体スケジュール
を検討させていただきたい。
- なお、委員から「横新道の踏切の解消が2030年」というお話があったが、
JR高架の供用は2029年を目指しているが、2030年には仮線（仮に

設けた線路)の撤去工事等があるため、横新道の踏切を取り外すのは2031年になる予定である。

(副委員長)

- ・駅前広場については、大勢の人が集まれるような、にぎわいのある広場になるよう検討してほしい。

(委員長)

- ・副委員長が心配しているのは、にぎわいのある駅前広場になるためになすべきことがあるのではないかということかと思う。設計段階等でアイデアを募っていくプロセスは考えられるか。

(オブザーバー)

- ・駅前広場の形自体は極端には変えられないが、駅前に、以前示した図面より若干広い、クロマツを中心とした広場ができる。この部分をにぎわいの場として活用していただければと考える。
- ・また、駅前のにぎわいは、周りに商業施設などにぎわいの施設ができることによって生まれる。そうなっていくように、地権者の皆さんともご相談しながら、誘導していきたい。

(委員)

- ・JRによる事業についてもじかにお聞きしたい。JRに説明会に来てもらえないだろうか。

(オブザーバー)

- ・JRからは、工事に入る前に説明会をすると聞いている。

(委員長)

- ・例えば、駅側に店舗など人がたまるスペースができれば人の動き方が変わってくる。そうなったときに、エリア全体としてどのようにしていくべきか。

(委員)

- ・商店街あたりで居酒屋団地などをやったらいいのではないか。

(委員)

- ・居酒屋というより、創成東地域でやっているような、仮設テントを張って行うようなイベントはやれないか。

(オブザーバー)

- ・最近、道路空間を使ってイベントを行うことが昔ほど難しくなくなってきた。そういう提案をいただいたら、道路管理者と相談していきたい。

(委員長)

- ・カバードウォークも直線的に描かれているが、本当にこの場所が一番いいのか。少し位置を工夫することで人がたまりやすくなることもあるので、トータルでデザインすることがすごく大事である。

(オブザーバー)

- ・カバードウォークも悩みながら検討している。もう少し詰めてから地域の方とお話し合いをさせていただければと思う。

(委員)

- ・広場が道路であれば、設置できるものは限られてしまう。ここで何かイベン

トをする際に非常にハードルが高くなるのではないか。

・(オブザーバー)

- ・イベントなどは大丈夫だが、恒常的にワゴンを出して商売をするようなことは、道路区域では難しい。JRも関わってくるが、少し研究させてほしい。スペースが地域の人に使われるように考えていきたい。

(委員)

- ・この広場には、地震など何かあったときのための広場という意味もある。
- ・屋根はつけなくていい。冬はみんな歩くし、タクシーに乗る人も多くないので。

(委員長)

- ・駅舎がいいデザインになっても、カバードウォークが邪魔をして見えない可能性もある。その辺も含めて、カバードウォークはまだ検討できるのか。

(オブザーバー)

- ・鉄道高架になるとその下の空間が使えるので、駅舎の中に入ってバスやタクシーを待つことができるかもしれない。

(委員長)

- ・今日は、本当にさまざまなご意見をいただいた。いただいたご意見は、委員長、副委員長と有識者委員で取りまとめて、文書として市に提出したいと思うがよろしいか。

(委員一同)

- ・異議なし。

(事務局)

- ・スケジュールについては、少しでも前倒しせよというご意見をいただいた。関係機関一同も、まずは早く着手したいと思っている。都市計画審議会できちんと説明して決定を受け、そして、工事ではできる範囲で前倒しをしていきたいと考えている。以降の展開についてもいろいろな方たちと相談させていただきながら考えていきたい。

- ・以上をもって、第6回検討会議を終了する。